

## メキシコにKWT300設置

厳しい日本の地形や気象の条件に適応できる風車として開発したKWT300ですが、その性能は、同様に地形や気象の条件が厳しかったり、電力網が未整備で大型風車の設置が困難な発展途上国からも注目を集めています。

2009年秋、KWT300は太平洋を渡り、メキシコ・オアハカ州に新設された風力技術センターに導入されました。建設時の施工指導やメンテナンス指導もあわせて行い、日本の環境技術の移転プロジェクトとしても意義深いものになりました。



KWT300は2009年10月、メキシコ国内有数の強風地域、オアハカ州LaVentosaに建設されました。メキシコ政府と国連開発計画、メキシコ電力研究センター(IIE)の共同プロジェクトとして創設された風力技術センター(Centro Regional de Tecnologia Eolica)へ導入されたものです。

KWT300が採用された最大のポイントは、耐震強度と耐風速の高さでした。当地は地震多発地帯であるため、KWT300の1G耐震設計モデルが採用されました。また、メキシコ沿岸部ではハリケーンがしばしば襲来するため、耐風速70m/sというKWT300は、現地の地域条件に合致していました。

同センターは風力発電にかかわる人材の育成、地域特性に適した技術開発、技術移転、研究開発を目的としています。

そのため、据付工事は、IIEの技術者自身が風車建設の経験を積み、今後の人材育成や教育に生かしたいということから、架設専門業者を使わずにIIEの

職員自身が担当しました。

現場作業では、日本では当たり前にある架設機材や、チェーンブロック、「しの」のような工具がないなど、試行錯誤の連続となりました。しかし、現場を担当した技術者の意欲は非常に高く、何かが不足しても、現場にあるもので工夫したり、時には、朝から夕方まで昼食もとらずに作業を続けたこともありました。

据付後はメンテナンストレーニングを実施しました。IIEは、風車の運転管理が、今後、風力発電を国内で展開するための最重要課題と考えており、細かい点までお互いの一つ一つ確認しながらのトレーニングとなりました。



今回のプロジェクトで駒井鉄工が日本で培った技術やノウハウを、メキシコへ伝えることができました。今後も、KWT300がメキシコの風力発電の発展に貢献できればいいと考えています。